

1 所得補償制度の導入

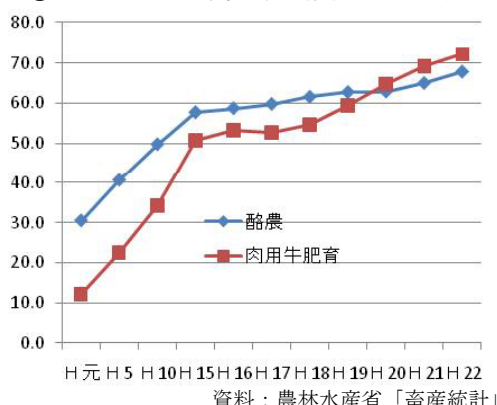
2 持続可能な酪農及び肉用牛生産への転換

現状と課題

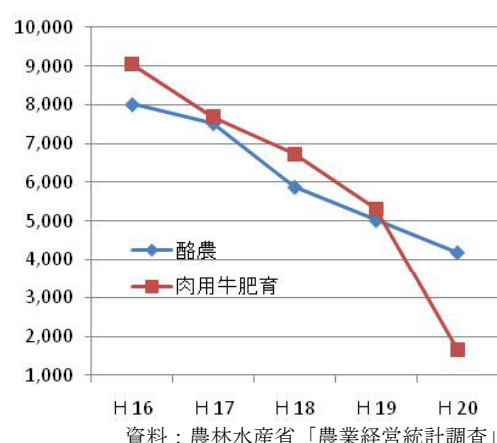
新たな基本方針

○ 酪農・肉用牛経営の動向

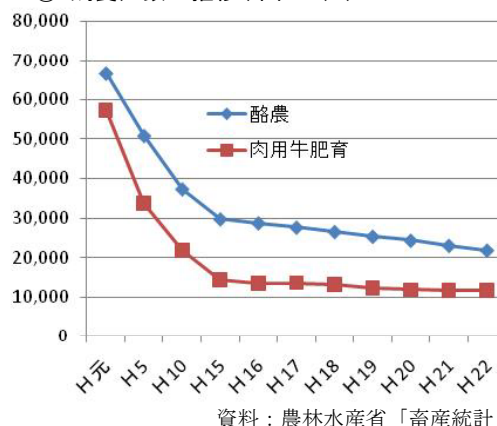
① 1戸当たり飼養頭数の推移(単位:頭)



② 1戸当たり農業所得の推移(単位:千円)



③ 飼養戸数の推移(単位:戸)



1戸当たりの飼養頭数は増大する一方、農業所得や飼養戸数は減少傾向で推移。このため、意欲ある多様な経営を育成・確保する必要。

◎ 畜産・酪農所得補償制度の導入

小規模な家族経営をはじめ、意欲あるすべての生産者が経営の継続・発展に取り組める環境を整備する観点から、畜産・酪農所得補償制度のあり方や導入時期を検討

◎ 多様な経営の育成・確保

規模拡大だけではなく、6次産業化の取組を含め、地域の特性等を踏まえた多様な取組を展開

◎ 6次産業化の取組等による所得向上

- 加工や直接販売への進出、農商工連携、ブランド化等による付加価値の向上
- 自給飼料中心の給与体系への転換、飼養管理技術等を通じたコスト低減・省力化
- 集送乳の合理化及び酪農経営の創意工夫を活かした多様な生産形態にも配慮した中小・農協系乳業の再編・合理化による更なるコストの低減

酪農における6次産業化の取組事例

<半田ファーム(北海道広尾郡大樹町)>

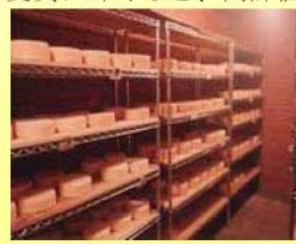
1 酪農部門

- 経産牛約120頭
- フリーバーン方式での管理
- 飼料生産にはコントラクターも活用



2 加工・販売部門

- チーズ生産歴13年
- 牧場に併設されたティールームでのチーズの提供やインターネットを利用した販売
- チーズの品質は、ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテストでは最多6回の受賞に輝くなど、高評価

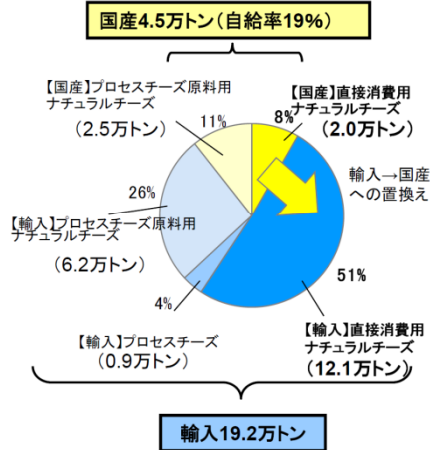


熟成中のチーズ

2 持続可能な酪農及び肉用牛生産への転換

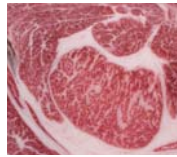
現状と課題

○ チーズの需給の現状（H21年度）

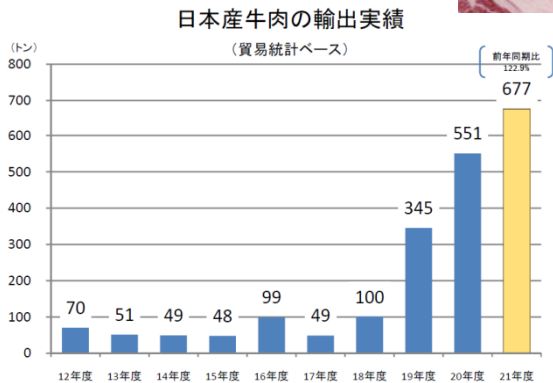


○ 和牛肉（去勢）の約6割が5等級と4等級

(5等級)



○ 牛肉の輸出状況



米国、香港、シンガポールへの輸出状況
(貿易統計ベース)

国名	米国		香港		シンガポール	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
19年度	131.6	1,111.8	84.4	597.1	—	—
20年度	86.0	776.0	112.6	715.0	—	—
21年度	80.5	637.7	119.3	693.1	26.2	186.6

(単位:トン、百万円)

現在、チーズは自給率が20%程度だが、今後、需要の伸びが期待される。また、脂肪交雑の多くない牛肉に対する嗜好も増加。さらに、新興国等では畜産物の消費拡大が見込まれるところ。

このため、需要に即した生産や販売戦略を構築する必要。

新たな基本方針

◎ 販売・出口戦略、高付加価値化

- 輸入チーズの国産ナチュラルチーズへの置き換え
- 脂肪交雑重視から多様な和牛肉生産への転換
- 地域の特色あるチーズづくりを支援
- 地域資源を活用した牛肉のブランド化を支援

＜特別な飼育方法によるブランド化の取組事例＞



交雑種にワインの搾り粕等を給与して肥育した牛肉を直売所で販売（甲州ワインビーフ）

◎ 畜産物の輸出の促進

- 二国間の技術的協議により輸出可能な相手国・地域を拡大
- 牛肉に加え、牛乳・乳製品輸出も促進
- 輸出認定基準に適合した施設整備を推進



輸出国別の施設認定状況

	米国	カナダ	香港	UAE	シンガポール	マカオ	タイ
施設数	4	3	5	2	5	21	12

注) H22.5.11現在 口蹄疫発生により上記のうち香港、マカオのみ輸出可能

2 持続可能な酪農及び肉用牛生産への転換

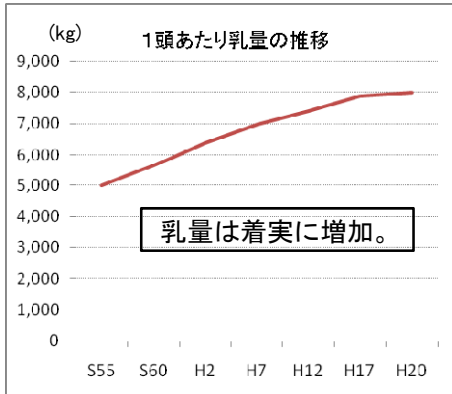
3 家畜衛生対策の充実・強化等

現状と課題

新たな基本方針

<家畜改良関係>

○ 経産牛1頭当たりの乳量の推移



特色ある家畜による多様な経営や消費者ニーズに応えた畜産物の供給及び長期的にひっ迫基調の穀物需給への適応を軸とした家畜改良を推進する必要。

◎ 家畜改良や新技術の開発・普及等による生産性向上

- 乳牛：泌乳持続性に着目した改良による生涯生産性の向上
- 肉用牛：早期に十分な体重に達し適度な脂肪交雑が入る種畜の改良
- ブラウンスイス種等の導入に向けた調査試験



チーズ適性の高い
ブラウンスイス種

○ 口蹄疫の発生状況

合計頭数：211,608頭 平成22年7月27日



◎ 家畜衛生対策の充実・強化等

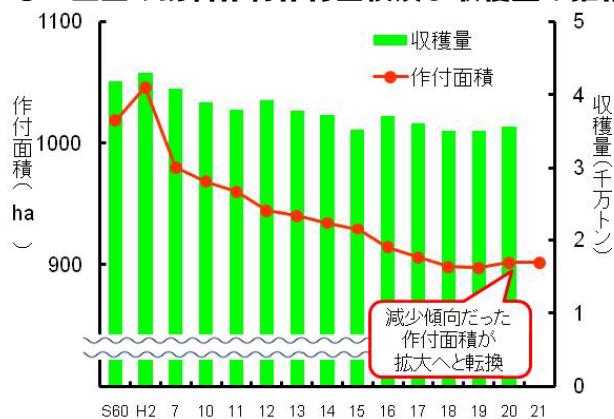
- 稲わら等も含めた輸入動畜産物検疫の的確な実施による検疫体制の強化
- 口蹄疫等悪性伝染病の発生に備えた危機管理体制の再点検・強化
- 農場に出入りする車両の消毒等衛生管理の徹底、経営を大規模化する際に予め家畜等の埋却場所を確保
- 口蹄疫が発生した場合、地域の実情を踏まえ、科学的知見に基づき、迅速かつ的確な防疫措置の実施
- 生産者等の生活支援・経営再開のための必要な対策の実施
- 口蹄疫対策特別措置法に基づく家伝法の抜本的な見直しを含め、所要の措置

口蹄疫等の悪性伝染病が、今後ともいつどこで発生するかわからないといったリスクが存在。
このため、家畜衛生対策の充実・強化等が必要。

4 自給飼料基盤に立脚した酪農及び肉用牛生産への転換

現状と課題

○ 全国の飼料作物作付面積及び収穫量の推移



○ H21飼料自給率(%)

飼料自給率	25
うち粗飼料	78
うち濃厚飼料	11

資料：農林水産省「食料需給表」

○ 青刈りとうもろこし作付面積(ha)

H17年度	H21年度
85,300	92,300

資料：農林水産省「平成21年産飼料作物の作付(栽培)面積」

○ 飼料用稲の作付面積(ha)

	H17年度	H21年度 (見込み)
稲WCS	4,594	10,306
飼料用米	45	4,129

○ 全国におけるコントラクターの普及状況

	H15年度	H20年度
組織数	317	522
利用農家数(戸)	22,292	19,852
受託面積(ha)	89,546	122,351

受託面積は飼料収穫作業の受託面積

これまで、我が国の酪農及び肉用牛生産は、輸入飼料に依存。最近の飼料自給率は25%程度で推移。このため、輸入飼料への依存体質から脱却し、自給飼料基盤に立脚した生産に転換する必要。

新たな基本方針

◎ 農地や未利用地の有効活用

- 水田を有効活用し、飼料用稲(稲WCS、飼料用米)の生産利用を拡大
- 地域条件に応じた多様な飼料生産を推進
- 放牧の推進



飼料用稲の生産拡大

◎ 国産粗飼料の広域流通の構築

- 広域流通拠点を整備し、耕種地帯から畜産地帯への粗飼料流通体制を構築

◎ コントラクター、TMRセンター(支援組織)の活用

- 支援組織の経営安定を図るため、法人化や規模の拡大等による経営高度化の推進
- 技術指導やコミュニケーションの場などの視点も含めて育成

◎ 流通飼料の安定供給とエコフィード等の利用拡大

- エコフィードの更なる普及
- 飼料穀物の急激な価格上昇が経営に及ぼす影響を緩和するための措置を実施



コントラクターによる飼料収穫作業

※出典記載のない数値は、いずれも「生産局畜産部畜産振興課調べ」である

5 消費者ニーズに応えた畜産物の生産・加工・流通と自給飼料基盤に立脚した国内生産の意義についての国民の理解の確保

現状と課題

新たな基本方針

○ 農場HACCPの取組状況

	H17年度	H20年度
取組農家戸数(戸)	1,022	2,277

○ 飼料安全に関する各種ガイドラインの制定

- ・食品残さ等利用飼料の安全性確保のためのガイドライン(H18.8)
→食品残さ等(エコフィード)を安全に飼料利用
- ・飼料等の有害物質混入防止のための対応ガイドライン(H20.3)
→飼料の輸入、製造、輸送及び保管の各段階における対応を明確化



○ 赤身主体のヘルシーな牛肉生産(日本短角種)



○ 経営コストに占める飼料費の割合(%)

	酪農	肥育牛	
	生乳100kg 当たり	去勢若齢 肥育牛 1頭当たり	乳用おす 肥育牛 1頭当たり
飼料費の構成比	46	32	59

資料：農林水産省「平成20年度畜産物生産費」

○ 酪農教育ファーム等の体験活動



食の安全の確保に対する期待が高まるとともに、消費者ニーズも多様化。

このため、畜産物の安全確保、ニーズを捉えた消費拡大、畜産に対する国民の理解の確保といった取組が必要。

◎ 畜産物に係る安全と信頼の確保

- 産業動物獣医師等の確保、口蹄疫等に対応しうる獣医師の養成
- 飼養衛生管理の向上
 - ・農場HACCPの普及・定着化を推進
- 飼料・飼料添加物、動物用医薬品の安全確保
 - ・飼料用稲の適切な栽培管理を徹底
 - ・動物用医薬品の新薬導入を迅速化

◎ 多様化するニーズを捉えた消費拡大

- 牛乳・乳製品を利用した料理の普及や学校給食における高付加価値牛乳の供給
- 国産牛肉の品種ごとの商品特性を分かりやすく消費者に情報提供

◎ 畜産や畜産物に対する国民理解の確保

- 自給飼料基盤に立脚して国内生産を行うことの意義や飼料等が高騰する場合、生産者が吸収できないコスト増を価格へ転嫁せざるを得ないことについて国民に理解を求めていく
- 酪農教育ファームなどの体験活動や産地交流会など、畜産分野における食育の取組を推進